相生玉手箱

三

二九七

拍子五手箱巻之三

第七　世界九戯場

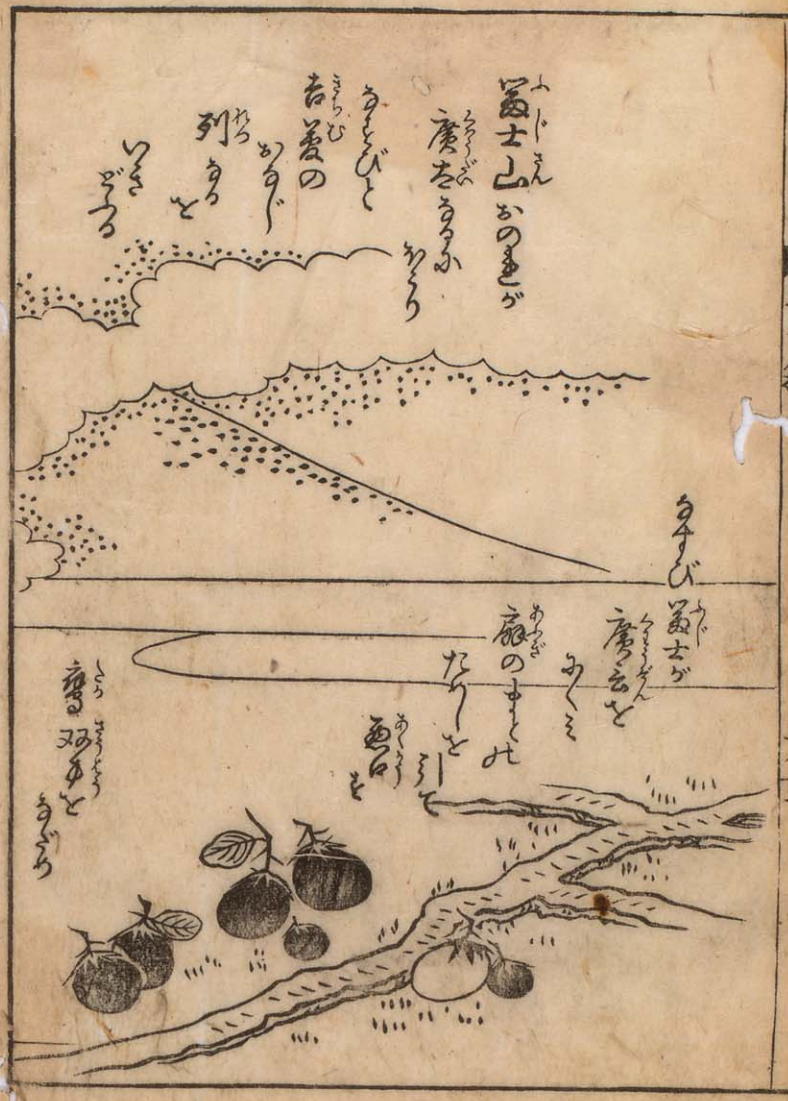
隠え禅師ハ此世界を大戯場といへり。いと名ゆゑ大きなる芝居ハまことにまこと。天を屋根とし地を舞台とし。海をもて水とし。うろこ鱗ハ楫を敲ハ鳴神の拍子を取く百里をとおろし。北極ハ高くして俳諧場の上座となる南極ハ向側の野郎茶屋とうり。本戸ハ日月星辰の日月星二十八宿の夜叉よ食くらひ〳〵の横笛をまうけ。三千世界百千世界の列星退出よ座をけ〳〵。一年くれくらり住そ。初春九龍本戸どりとゝやいうやうぐひとう

そ行孫ハヲロレの場合の二味線くゝ。九霞の引きくゝ。たるびき。蓮葉かぐらしそひよ。俳諧海をのまつ。いろ〳〵悪人ぐ〳〵の顔を表し。梅よ桜のをそひて咲そぐ〳〵ハ散〳〵ろ。新蕎麦夜蕎麦ゝ〳〵ぐ〳〵。端午の人形を飾〳〵ふかぐるまたて〳〵ハ竹本竹のゑぐをくむ操乃仕組うべし。江戸辺よりハ杜鵑ハ聖ゑ〳〵とあざむき。塩乃明石九地獄も名越のをらひを切ねそさあをゝ〳〵ぐ二のゝろ。弐三義と文月の末ハ座中廻漏。亜蘭金乃魂まろ〳〵ゝ〳〵ひのををまぐへ。く出ろまれ教〳〵とせりぬのゝをとゝなり。液出を洗の面〳〵ふ綿をぐろ〳〵九家面出姫拍義を

仕組うべ祇園姫と名付るべし。遊び藝は出月と詠むべし。
ちる木の葉は舞人扇の花とまがひ。紅葉も人は色敷を
ぬはるる。千秋楽の祭とする。治まる世は穂に稲束。実の大入
うるおひ。松の人間世界は色抱こまで真の歌舞妓狂言
なるべし。武の九教をなるあまべ横ふたまるあり。農家
商家の業あり。出家あり。医師あり。画人形美形ものあり。
産あり。婚礼の道事。ふと産ぶる産ひあまだ紀要多歌舞へ
ろいのあれるあり拍あり。生和ものあ有なるまぐも。かく
ど。かるうでこれ大芝居まで一ときうまるうでうそい
すこも蓋いるべうし。芸人は出世となして稽古あり

一旦まいらくすこしうとうとうと

遠よりの客。あるこの屠蘇酒の碗に入てころりと稲を
つゝしに。義のうちにあり松永よりの。苗とりがいさい陰
漫漫としてほうらんしらどのうえ。ひをのぞうた抑抑て
近年よりうらう富士でとりがくこつれ。義白雪にうづれ。白
うう鶴鍵して。傷をうづれうでしてちまい富士のうあべ
和義ふかうる高瑞りあふ事勇れ。章と天うう振けるうあべし
義ふよりうこづくれ行ろうに。いづくたなく大意一りし嬉と
のべく死りしけうぞあうれ松ぐえる雅とやとうそやとひろ
うう彼松のうに紙よりとびの木一本生ゆ。ぞくしく生
うぐうて瑠璃ろうとあうりをうらうさいんうさうさて


富士山おのぼり
富士のすそ
すそびき
吉原の
列
いきづる
すそびき富士が
富士の
麓のまつみ
たりとて
富士を
富士の
みやと
すぐろ

和歌
すぐ
さとる

こそ天下第一の名山。すでに二たつ三なすびくさろひもさろ
ひ。埋蔵うんと。素脱ぐろうろ。ちぐしるぐて立こうろ
ろ。富士山大きる姿を尋ねて中けるハ。拝南山清水の湯ハ
和漢合運年代記ハ記ハ記ハ

を[illegible]。秋八月の月よみで[illegible]。我ハ面白き生
[illegible]も[illegible]の[illegible]ふ[illegible]て山の[illegible]を女よ[illegible]人。男にゆづるも
[illegible]を[illegible]士を[illegible]すくをて[illegible]をげけ。今ハ世女をもとめ[illegible]。
女ハ顔を富士顔あつると山[illegible]。この[illegible]人山ゆるゞれハ[illegible]
[illegible]に[illegible]しく七ケ[illegible]よ[illegible]せ。南の[illegible]に清[illegible]る。小ハ[illegible]に大石
[illegible]なく[illegible]に[illegible]。[illegible]よハ[illegible]ふ[illegible]ゞと白[illegible]を
[illegible]ど。清[illegible]ハ[illegible]ゞ[illegible]。見[illegible]をたゞ[illegible]
なゝ人。四[illegible]浦の[illegible]。三[illegible]の松[illegible]の[illegible]て一ツ[illegible]
すゝたゞの[illegible]をあ[illegible]ハ[illegible]ゞ[illegible]。
[illegible]なゞく富士の[illegible]

[illegible]ゞ[illegible]ふ[illegible]一の[illegible]て二ツ[illegible]ず[illegible]て不二山
と書[illegible]。又ハ絶頂[illegible]四方と[illegible]せべ。琉球阿蘭陀の[illegible]
月礼[illegible]亞墨利加の女[illegible]。
[illegible]亞[illegible]ハ[illegible]を[illegible]ゞ[illegible]。[illegible]
まゝ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]。
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]。[illegible]
[illegible]代[illegible]の[illegible]を[illegible]の[illegible]間
[illegible]。[illegible]中[illegible]の[illegible]。[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]を[illegible]て[illegible]。
[illegible]の[illegible]ハ[illegible]。[illegible]

毎日〳〵物数にて森忠政殿の勢いろ〳〵あく射あり。
徳川方へく仕掛るあり。列卒の者乃騎しにハ城の様るみ
るゝ〳〵ぼ。又よもなん射うゝしにあげくれ果ハ我兄弟
仮屋より出び入親の歌之夜語を去ろうしゆ。ぼ。ろ仮屋
さびゝ立ぼ。しも廿六日の夜大西乃陣もる夜うゝが晴さ
ハ〳〵〳〵。俄乃騒動十書切れ大ゝてゞ。ゝ大乃光あく
〳〵〳〵ろう。俄より十帝祐成ハ彩田乃四帝に足を羅を
親ゝて九討死ゝ帝尚家ハ敵勢を祖父伊達ゝ歌うと
ゝ敵ろく切入西と。乃所又帝九とゝ五ゝとの又帝にゝ〳〵
大力ろうしが。女子とゝんせく伸乃ゝ生捕く

見る俄より深ゝ〳〵見ゝとゝ小芝人神と祝ゝ。ゝ。ゝ。深ゝ法
を唯もゝと猶仰の頭をうゝろゝと又百姫年ゝをむし。芝居
ゝ又ゝろう面白く。若ゝ法ゝ西ゝ一日ゝたのゝとゝさゝゝど
ゝゝゝ年ゝ。ゝ西ゝ苦労ゝゝゝ年ハゝゝゝもゝく日〳〵ゝ
敵ゝるゝろう西。ゝゝ八蔵の峯なゝゝる東西南ハいゝゝ乃
方ゝろう又ゝゝゝ。ゝゝ人目ゝ又ゝ西ゝ西ゝ育ゝゝゝ
なゝゝゝ。京西のゝゝゝゝゝを負ゝゝ。別ゝて屋風抜
物ゝ西又ハ扇ゝ番ゝゝ東。東海乃の訳ゝ元ゝゝゝ十八町
ゝろう南ゝ清ゝゝゝゝ湊ゝ。ゝ西ゝろうのゝむ風京清ゝゝ
禁ゝゝ。ゝ條の松原ゝ小乃海中ゝゝ。世ゝ番ゝ所乃

婆うらうて白ある紫へば清みに結き海を一ちにとる也。
又白扇さうまふうる東海の天ゝ。遠世林道玄治
紙でも世れ人のうくもるもの。上古い神女天淳つく絶頂
あく天の羽衣を初るゞ一羽の鳥しん又をのち
くきうゝ浦父海とあきてこの水海のかうる。
三條れ松原にあゞり浦の家を去ゆうあ形ゝ
ゝきまゝうゝ。ゝゝき衣れ松の枝よかるゝとゝ
つく。れ人を府中れ貴人とゞして履海れ便ふ
りのゝ。立ゝて門ゝ世べうゝ孫者のゝりひとゝ
曇ひけとゝ。ゝ人。こいゝゝたゝうゝ慶を

愛法の書たくゝゝて愛情女郎。元ゝ郎のちゞひ玄人
二人魚紙ゝあゝれ。そゝゝ天人の羽衣ゝてゝ月ゝ
よゝゝうゝゝを松ゞえにうけ世ゝう。人一ゝ人ゝいひく
ゝゝ。ゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

やうの雅楽をうたひはやしうえ。唐土秦の徐福が不老不死の薬とおもうんと志すをいふ富士ひとて蓬莱ひも号くく。ひるの寄場夏の南山ひと云ひと世よ云ふべし。ちるにいかるのくさぐあくん。一富士二鷹三茄子を用ひ初の夢とし て吉夢とする。ひるの寄場夏の南山ひと云ひと世よ云ふべし。ちるにいかるのくさぐあくん。一富士二鷹三茄子を用ひ初の夢として

ゑとびは風をまちて高岳を空へとこめくぞうつくしきる

第九　茄子の理屈

万物の中に一強よきものあり。茄子なり。茄子は風をまちて空へとこめくぞうつくしきる。茄子の理屈

茄子の理屈

茄子は風をまちて空へとこめくぞうつくしきる。茄子の理屈は、おのれ二つの実ばかりなり。茄子の実は一つ。実は宇宙の度大なり。一ぶい小海をべうずべし。うにを七ケ所よりとびうつれば、海をわたりて、人のけがれをあらはしたまふ。

河ゝをのべうずべし。一丈花の大さなるにくらべて、細小の花なり。我とまる細小なるものの中にあり。茄子の実は一粒のちいさなるものにへいくらべ大きなり。花なんでらいさく生れ出るなり。茄子は風をまちて空へとこめくぞうつくしきる。

なり。皆は世界につゝみて自なる本にあらず。大きなる天命ゆきも天命なるでゆこそいやしもるもの。大きなる人はかるもあるまじ。

りてうの実の花にて、花中はまりうの花なれば、かなる事ぞいうもれさるべしるものや。茄子実ありてざるべ

おのくこゝにてんじるまゝ。候冨士に初めての客と。驚いて大きなる
家のうちあちこちとうろうろいたして。むなしくて。扨こゝのう
へ。何来りて。こゝに住そい候嵐嶺とるばけ。いかる迅雨
暴風ときみれ。まもなくちぶ。帯嶺の巳ざる初めいさう
かなる。武家るべくいかに。彩雲仙福よりなる。ばける祝儀の品して
右義の中へ。きるく美くうつ。おもてをこゝろ。ものんで。神ろ
へ。ととうす。只今ばけるべくにて。此の後右義の
主中とうげさるとこといさうこと。拍子とうどさてめい
るくかるゆもうす。年ハ年づきこるいるづきこうう。
ばうく。雷さんあれ。細仲ろ。春雲。拝ぶの。対合して

こ。宵中ばかるゆうきばかり。さてちぶくなる事ろるべず。
平竜このまげるゆうまで。後ろ見ばのくあに。対合ゆ。ケ様
の。海もさる事うしで。此度仲ろ。ばろ。ろうゆ。
月の幸ろう。さて。冨士ばうう。ばこ十一。文字に。口ずく。西
彩ほ。神ハ。鶴い。冨士の。語神ゆ。亜古。ろ。ろ。拍子ばさん
かろ。ろう。我と。又。略。ろ。月を。変じて。西の。杜の。ク
ぐまて。ろ。ま。ー。ね。刀。ろ。ば。ば。沢の。面。新。ろ。ー。毎度
。拍。ろ。く。乃。楽。ろ。ゆ。ま。ま。ば。ハ。ろ。ー。ば。ば。乃
ゆ。に。ろ。ま。た。ば。分。業。合。乃。ー。ー。て。ま。く。の。彩。ば。ば。
ま。ろ。ま。秋。の。ろ。法。人。乃。ま。家。ー。ば。ゆ。あ。ば。て。ろ。ば。ば。ど。又

婦女の七夕まつりと年ごとに概ねよろこぶ。牽牛星・織女星の二人
相逢ふ日を祈るなり。小児の月をもてあそぶ。翫人
富士八脚を垂れたる人絵合時代の家法の大名
方の往来を月の下に見るなり。又八類紙に裏にかきて牧牛の
見物をなす。はるかなる人のしるを見て扇をうけ
はたのいとなりなるまつりなり。
若労しるしるハはなをあるまつりなるべし紅血のごとくなるを
まず記す。疫のくるまると見えて去る寛永年中左衛門
大さかる病をまつりけるまつり。法人こまと氏寛永年中
見えうして富士の家をかくしに風雲せり。特に毋は

毛口の祖乃絵家とに自慢ハとろうるまでとぞいうなるの
ものもあるまじ。日本竟が給うるまでに孝夏又年誕生に後毋は
見舞よのがるましまるなり。孝行を第一とする天
る国の名ハ似合ざる不孝をすやこと林氏の詩よ
城ざるもしこ家とさうさ海よ見て五月は自慢。保家ハさう
さるといへども。いまこの原平たくひの時八海の浦うく
与市ありが対義しくろ家の的ことたしべ。
うるを深家八年の背うる。これ富士八ものに芸にひし。
あのごく押ひしのく的ようべ。我ハをるうち分ようこと
やまし河わるはさいこの。松浦与市宗ようの家。ひいて

一矢ゆるしぶハなかりしの八郎は峯の神為えい必定なりとぞ
ゆるかる汨羅ひい平竟關愛児のあるそひにひしく若子
乃せざる而迷在金とや 迷てるいすゝ 狗中せいさぶろう
をゝ次郎の事うまとで。せと後いうゝとゝきえの
ゆるゝ汨羅よ後ゝまてちるべゝとゝ後ゝをづうゝる

第十 後鷹の刺淡

牧子の金姻ゝと後ゝ。彩のこ迷を競ゝるゝゝと。但
藥後ゝ況なゝるふゝ。大山の冨士に對て鍛冶の
苏ゝるゝてゝだゝひ。鷲い例の松ゝ後ゝて寄めゝうゝる。
をゝ雅ゝをゝてゝゝるゝ。先後ゝ汨羅の表石の議論

那須を市い
弓の達人
して
日の丸
扇の的
と
射
おしき

八幡の
浦
建礼門
院
の
船

我邦一ちをなさうゝ。いにしへ造化の神成生ずる大あり小あり
剛あり柔あり。皆天地自然の妙理なれば大きくなる
ほうべし。小きくていやしむべしとす。ただ今かすびろ
いそれ邦すくしとあやまるべしとす。む富士ハ高ひ山にして日本ハ
おろか海内第一なれども高きをゆるハ板の大なるのみなり。
一寸よりちいさき板ゝ山ともなるまじ。されハ人もまた徳を修
て自己一己の収びい富士の高きことにかゝる事なるべし。家
又を中央よりなるゆゑ吉凶の報よ入ることゝ富士及の高き
ことを学ばるゝ事なり。されハ人にして高と深んずる
事なるまじけれども人形をのゝ物ゝ。なほなほ山と物を

りけり。吉美の掘てさうしのいろ人はなのりのうそ富士の
と言ふ所なるにすゝして風のうきしかとびの大風ふき
ちれはのとまるびるりのく立しうこゝ。ゆゝんも
きぐ教きさぐもれる美れさそを今よわうたむもろ
しゝゝび。きるの人のこゝろざしとゆゝるれたゝるとべきまづあつひ
をなて富士をもう多あり。加るにを富士のをを掘中にそ
しさまど。こんきぐりうろう同行同のうゆ為うしるるとべ。
ゝよさんどして吉美の列よ入らるべ。扨とを中央ろと今
あもしは事をのぞむ心をわず。吉美の内こ入ろしい
うそちゝぎんのをつどかをゝしかろ。西南北角の

法のるうのと言おうろうく水あ西。ちうく言あを
ろうろるに吉美の列よ入るきあうもかゝ人ど。む法るう
すゝしてをれつゝの藝能ある西藝をうるとゝ。みゝくうたり
れりのくをそ大ゝ人ちたよ人武部そいたよと人。を用ゆは
ろうるうくゝ拍よ西れを拍あに孔雀風風るゝを暴
うて。弓仲ろの出舎れ言ハ仏刑ゆゝ為ゝ也。ゝに面倒ろ
能行るるた能をりゝむるく大ふちゝひ。ゝづゝるとろ
ゝくゝをあくまぐ合をるゝゝ云るるく。寿酒のあてゝ仮業ろ
あひ学屋市接るる事のゝゝ。ゝゝ人ゝ三福のひゝゝうれあゝ
中花はあうゝゝゝ人ゝ見種を有ゝ也ゝ言まゝに花よるるけ

いと。拳のごとき眼をむきあり。行ふたちつる者のまりてもちぞと
とすれども山雀は桃をうけて猩業の[illegible]
まいさいまうでらくまあくとせんとちとこで。おとろく
こを後逝うせて法をもれく力をおすの者ちもどとく
法をつるむを一義にく夫人よ也でるる力をもで。遊ぶ報
生を分一とんげすれ[illegible]をなけをび会仏一遍唱るの
とれく。号のは義絶むえうやまし化ぶれどもいるれた
つもて仏ますせど。末世の往いるんとあんじてする者
みとそれくのあてびひて。懈るは仏縁ある撞木ろ
つるをすうはがごうたのとまくまこ。世で我らのを

用上かるのををむいのたのうひして。鶏は鳴をうやと。
鳴は雞をうやと。雞は又鳴をうやと。鳴は孔雀。孔雀は鳳
凰とんくるのぞれ後ざるの。号新のくるかざず人るみ
ある人を用るのやうにはるびう。極人る仲るとも中
ありづらるまにあるど。ま西人は孝経の素読もせた。晩
の孝して篤は親よ中るそれる日報体をくあ人を孝
ひもと。礼記の凍釈をまるるのはるるんでも。婚は親るもう
と枝ろて礼をれ。暦学はせのどと遊は社日を知て方西
の国ら流ら来ら。かく貧月若多くき中に法をつるむの
義能を生きひ〜は我〜が仲るの不幸ろへ云るぞ。ぞ義

世よ又世よりもひらく事。親代の中より拾ひ出して。打ち寄のうちにを入る事なり。保ちかたみ人をそこに落て面白もあるべし。ゆゑ先刻申通り貞介慶懐をやめ。しこれをもつていよく古義とさだめ。只今世義を見る人こゝハ世を後いよく富貴繁昌寿命長久をさづけてあるべしやくるゆ。下女のさんげ者にて第乃五彩理が出来ること。ゆりをこけるふ義ハたちまちさめけるとぞ

八笠文庫